

御寄附御礼

浅原源七様（戸田健夫君のお祖父様）からチープレコード一贈つて頂き、塾児の言語治療等に有意義に使わせて頂いています。又、鈴木照子様、長田充弘様から御寄附金を頂きました。

以上の方々に厚く御礼申し上げます。

この他、会員諸氏からのカンパありがとうございます。

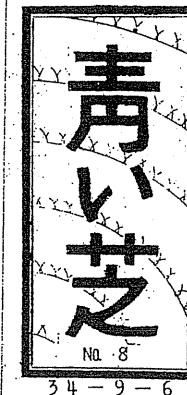
どうございます。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

◎前号の折込みでおしらせしたように、本会では脳性マヒ者の生活体験記録を集め一冊の本にして出版することを計画し、その原稿を募集中です。この本の出版目的は、一人でも多くの人々に私たちの実状を訴えて知つてもらいたい、正しく私たちを理解してもらいためなのです。ですから、文章が例え上手でなくとも、それがその人の生活や体験からにじみ出たものであれば良いのです。そして、小さい子供の父母の記録（必しも小さい子供でなくとも良い）も併せて出してみたいのです。原稿募集〆切は六月末日ですからあるつて応募して下さい。

尚、この原稿は本会以外に広く募集しますから、関係者でそういう記録を持っている方がありましたら、本会へお送り下さい。お願いします。

黒板



発行所
大田区雪ヶ谷七五ー(青い芝の会)
印刷所
大田区調布嶺町二丁目三一
編集責任者 尾堀元英
更正社タイプライター・オフィス

34-9-6

山 北 会 長 辞 任 す

去る六月の役員会において突如山北会長の辞任願が提出された。

辞任理由としては健康上の理由で、役員会としては、なんとか十一月まで留任してもらえるよう懇願した。しかし、山北君の決意は固く、役員会は仕方なくこれを受けた。

ここで会員諸君に考えて理解してもらう事が二、三ある。会長を始め役員の仕事がいかに大変な事を理解してもらうことである。一つの例として、毎年春秋行なわれるクリエーションにしても二ヶ月前頃に役員会で実行委員会を定め「日程」「場所」「費用」等を定め、役員会の承認を得、バス会社へ行きコーズ、費用等を定め、これを会報で知らせ募集する。そして下見を行い、募集したものを持ち当日のこまかい打合せを行い、この間

に本会の関係者の方に同行を依頼し、こちやつてリクリエーションが実行されるのである。

一つの事を行うのに、これだけの手数がかかり、この他会報発行、契約、役員会、支部例会、その他いろいろな事が行われ、役員は週五六日は会の事で追われて、しかもこれは精神的にも肉体的にも大変な仕事である。そして経済的にも大きな事である。交通費は会の方で出るが時には半分の時や全然出ない時がある。しかしこんな事は問題ではない。もつと大事な事は「自己の将来」を考えた時生活安定を考えると疑問をもつてある。しかしこれをのり越えて本会の為にやつている役員の事を考えてよいのではなかろうか……。ましてや会長は大変な事だったと思う。会のあらゆる面の配慮や連絡、その他数々の仕事である。

尚、役員は次の通り

後任会長に金沢英児君

山北前会長の辞任は受理した役員会では後任として前副会長であつた金沢英児君を定め会長に就任する事になった。金沢新会長の話『至らない者ですが、皆様に協力によつて会をよりよく発展させていきたいと思ひます。』

この他、会員諸氏からのカンパありがとうございました。

この他、会員諸氏からのカンパありがとうございました。

この他、会員諸氏からのカンパありがとうございました。

(1)

不自由に生れて

一身体障害は克服出来る

E.R.・カーレルソン著
天野まこと 訳

葵書房発行 定二〇〇 送二〇〇

○ 編物講習生募集

一頁所載の通り編物を始めましたが、現在人数が少ないのでもう少し人数を増したいと思いますから、ご希望の方はどうぞ直ぐにでもおいで下さい。

月謝は不用、編機も日本編物協会の諸先生方のご厚意によるものがありますから、少し古いのでよかつたら貸します。

教材も手がなれてしまふ度お渡します。

尚、正会員が主ですが、その人達の気持を十分理解して下さる方ならどなたでも結構です。

○ 編物教材募集

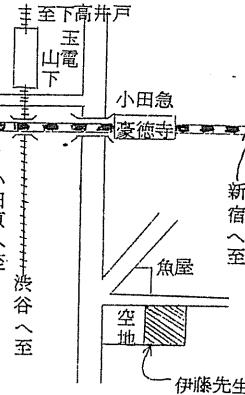
編物の教材が必要になつて来ました。お手許に少しでもございましたら御提供下さいます様お願い致します。編返しで結構です。編貨は一オンス当たり三十円（素編の場合）の割で頂きます。

教材をもつて来て頂く場所は、地図にあります。

ある伊藤先生のお宅へ月水金にお願い

致します。

伊藤先生宅



この本の著者、E.R.・カーレルソンは成人为してからも、コーヒーや茶碗を持つ時に、それをはたして口にとぶかせることができるか、肩を越してとばしてしまうかわからない程の脳性マヒ者であります。これら、努力と忍耐によつてエール大学で医師の資格を取つた人である、そこに書かれていること全て、我々脳性マヒ者にとって有益なことばかりである。

尚、この本をお求めになりたい方は本会でお取次致しますが、本会員の方には会より補助し一九〇円でおわけします。

原稿が集まり私達をこまらせて下さい。

いろいろな体験や日常生活の様子を投稿して下さい。次回の〆切は八月十五日迄に送つて下さい。（広瀬、古俣）

編集後記

私達今回より広報部の部員になつてこまつたりあわてたりしましたが、原稿が集つて整理することになり、なによりも嬉しいことです。でも、もつともつと原稿が集まり私達をこまらせて下さい。いろいろな体験や日常生活の様子を投稿して下さい。次回の〆切は八月十五日迄に送つて下さい。（広瀬、古俣）

編集後記

山北君ごくろう様と感謝しようではないか。一日も早く全快する事を願う。山前会長の話『全く自分の体のひ弱なのは我ながらあきれた。十一月までは頑張つたのだが……。こんな事で「ごくろう様」等と云われる』等と云われるとテレくさい。これまでの成果は全て皆の協力のたまものなのだから。

態勢をとるのえて

本会も早いもので発足以来二年近くになる。その間多くの方々のご支援によりさまざまなお活動をなし、そして、始めは思いも及ばなかつたほどに大きくなつてしまつた。喜ばしいことである。しかし同時にいろいろと問題も出てきたし、又反省し再検討することが要請されてもきた。とくに、「本会はどうあるべきか、何をするための会なのか」という事を明確にし、そしてそれへの態勢をとる。それが最も本会は最初ばくぜんとではあつたが「私達脳性」と者の会をつくるう」ということで、その結成が思ひたゝれ、そして、お互に助け合い励まし合つて青い芝のようにふまれてもふまれても強く明るく生きていこうという趣旨で生れた。その趣旨は今も變りはない。従つて、そのような趣旨によつて本会は云わば「グループ」としての性格をもつものでありその現れの一つとして会員の親睦をはかる。そのようなことが出てくるのである。しかし、本会の仕事として、たゞそれだけではすまされなくなつてきている。もつと実質的に会員各自の生活を支える自活の途を講じるという仕事をしなければならない。事実、会員の間から「施設を

「つくれ」就職のあっせんを頼む」といふ希望かしばしば出される。云わば本会には脳性マヒ者のための社会事業も要請されているのである。尤も、脳性マヒ者の福祉を増進し、又その更生を図るといふことも本会の趣旨の一つであり、現在までもPR活動によつて云わばその下地を作ろうと努めるとともに、今春からは編物及び細工の講習並びに授業を始めた。そして、この他にも現在まだ一、三のアイデアが持たれているが、かく、我々の福祉或は更生を圖ろうとしつつも、今迄それについての態勢をとゝえることにおける所かではなかつたかと思われる。一体、前述の如く本会では脳性マヒ者の社会事業もしていかねばならないとして、それを我々だけの力で出来るだらうか。勿論それは不可能である。従つて、我々とともに活動してもらひる組織がどうしても必要になつてくる。尤も、今迄多くの方々のご支援によつて本会は活動し発展してきた。しかし、こゝにおいてそのような本会にさしのべられる手を、専門家や有識者を中心とした後援会といふようなものに組織化していくことがのぞまれるのである。そして、事業をより一層しつかりした基礎の上にいとなむ

るが、「我々の会」という会のあり方から法人化されることは無理と考えられる)ともかく、本会の目的の達成のために、そのような会のつくれることが切に望まれるのであり、それがために我々は努力をとりたいと思う。

現在、我々のための福祉は甚だ遅れしており、又脳性マヒ者のための社会事業は容易なことではないと思われる。そこで、今日社会事業は近代化され専門的なそれようとしている。そうであれば、脳性マヒ者のための社会事業もそれに相応の組織と態勢、そして力をもつてなされなければならないと思う。

「青い芝」はみんなのグループ」としてお互の親睦を図り、又企画を練つてそれをよさしく会の充実を心がけるとともに、「青い芝」は脳性マヒ者の福祉や更生を図る」ものとして、しつかり能労をとゝえその目的のために努めていくべきだと思う。

金沢英兒

の前途は最も暗い。就職の戦線も、楽しむべき家庭生活の夢も早や私達の前に閉ざされていると同然であると言いたい程である。

このいためつけられてゐる現状にありながら、どうして心だけは平常であれとい

今までに笑き当つたのは、今から四、五年
も前、それも私と同じような脳性マットの
一人の少女に逢つたときのことだつた。
少女の心は乱れに乱れでいた一。
私の力ではこの少女は箸にも棒にも掛ら
なかつた。私の止めるのも聞かず、この
少女はとうとう悪の花咲く夜の巷に落ち
ていつた……。
不幸 それはあま
りも不幸な出来事だ
つた。
「どうせ私はこんな
心だけは……。

健全でありたい

◇ 学令期にある腦性マヒ児の指導を、
伊藤京逸医博宅（世田ヶ谷区）と田園調
布幼稚園（大田区）で週二回行っています。
◇ 会員を家庭訪問したり、種々と便宜
をお計りしています。

そう云つて彼女はいつてしまつた。

金
沂
惟

健全であれど、それのみを急願していた
ようだつた。

れと云つていた……。
母は愛を説いた……。
それは、社会は厳しいものだ。いわゆる身外障害者と云われる中でも特に厚生

人がいる、このような声が聞かれるようになつたらどうであろうか。

◇ 家に引込んでいるような脳性「と者は
に「外に出よう」と呼びかけています。
◇ その他常に企画を練り、又時に応化
て本会の目的、即ち脳性マヒ者の更正援
護と福祉増進のために必要な事業を行つ
ています。

◇ 会員の更生を図るために、その一環として、編物及びあけび、ビニールによる各種籠類の製作の指導或は授産を行っています。

◇ 学令期にある適性マヒ児の指導を、伊藤京逸医博士（世田ヶ谷区）と田園調布幼稚園（大田区）で週二回行っています。

◇ 会員を家庭訪問したり、種々と便宜をお計りしています。

◇ 親睦を図るための例会や、リクリエーション旅行を行っています。

◇ 機関紙「青い芝」を発行し、脳性マヒの正しい理解のためのPR活動を行っています。

また、海外の脳性マヒ者団体との連絡を行っています。

(3)

(2)

支部を育てよう

東
京

本会では、この度東京都における支部を
しつかり立直すことになった。
支部は今迄各地区に任意的に設けられ、
その活動も一部を除いては不十分であり、
又各支部は夫々バラバラに動いていた感
があつた。そこで、この度支部の目的を
さし当つては会員相互の親睦を図る(眞
本内によれば例会を開く)と、少しことこおハマ

、東京の場合都部も含めて五つのブローグに分け夫々に支部を設けることにしました。そのため各支部より三名の世話を選び、八月十四日に支部結成についての総会を行つたが、八月三十日の城北支部品を皮切りに以後毎週日曜日毎に各支部の例会を開くことにしていました。總括を図ること、社会福祉を増進させることは地域的なつながりにおいてこそ実現的なよりよい成果が得られるのであります。本会を一人々々の会として発展充実させていくためにも支部の育成を図りたいと存じます。尚、各支部の区分は次の通り。

中央	千代田	中央	新宿	港	渋谷
文京	品川	大田	目黒	世田ヶ谷	
葛南	中野	杉並	三多摩及び市部		
荒北	練馬	板橋	北豊島	荒川	*
足立					

第二回

て、第二回青い芝ヤンブを行つた。エスベロ会のご協力によつて、事故もなきヤンブを終えることが出来た。エスベロ会の人たちに手伝つてもらいながら、炊事をすることは楽しかつた。海水浴をしたり「これから青い芝の会を如何にすべきか」というテーマで、デスカッションを行つた。又、「私達のこれから的生活」について懇談会をした。みんな活潑な意見を出し各々の希望を話合つた。今年のヤンブは余りかんばしくなかつた。

一バツチをとへそ

五月三十日午後、中央線高井戸駅北口広場で、肢体不自由児のための「愛のバトン」を売った。参加者は五人、親チケットを賣つた。この会からお母さんが二人応援に来て下さった。そして、お手製のメガフォンを持ちながら、つたりして「お願いします」と声をかけられたところ二時間余りで六十六個と売られた。この成績は、販賣していくのは殆ど女性という男性にとつてはいさゝか耳の痛い話。尚、これによつて本会にも一千円弱の収益があつた。

内されてスリーブレスでは肌寒そうな子達、それでも定刻きつかりにすべり込んだ私の前に元気な顔をならべてくれる。塾に今かよつて居る子と、三月に別れた小学生さん達。夏休みの一つの行事になつて居る映画観賞。

此度は「ビノ・チオ」をみるとする。
「元気」五月会わぬ間に「うん」とも言わず
ながら なつて しまう
子。海へ 行つて恐
くなつて なかな
入らな かつた と笑い
ながら 間から歓声が上る。何時でも親子四人そろつていらつしやる処から、塾時代に付けられたアダ名が久しづりに呼ばれる。何時に変らぬ和氣アライ。子供達は「ビノ・チオ」の鯨に少々参つたり、コホロギのクリケット君に同情したり。笑つりあふべになりかけたのだつたかしら。

分つてるわね。可愛いい小学生さん達。

「小児マニ 指定伝染病に」但し、これ
は脊髓性（小児）マニのことで、脳性
(小児) マニのことではありません。同
じ小児マニと云つても両者は全然別個の
もので、後者は主として妊娠中又は出産
時に何らかの原因で脳の運動中枢を障害さ
れたもので、伝染する恐れは全くありません。
せんが、前者即ち脊髓性マニの方は急性
脊髓前角炎といつて、脊髓の神経細胞が
ビールスによつて冒される病氣からくる
ものであります。そして、最近はそれが集団的
に発生することが多く、又患者も子供に
限らないようになり、発病率も高くなる
傾向なので去る六月十五日から指定伝染
病となつたものであります。

△新聞から▼(b)

城北	城西	城南	中央
足立	練馬	中野	文京
板橋	大田	品川	千代田
北豊島	目黒	杉並	中央
荒川	世田ヶ谷	三多摩及び市部	新宿 港 渋谷
*			

親睦会に出席して

丸山か上

地方の会員とは文通を

湘南支部の集い

地方の会員とは文通を

七月十二日午後一時より神奈川県中央児童相談所(藤沢)で湘南支部の会合が持たれ会員外の人も含めて十五人集り、みんなでいろいろと話し合つた。尚、湘南支部の会員は現在十二名である。

又、役員さんも二、三を除いてどこに居られるのか解りませんでした。の方は特に服装で感じが変りますから私の様に人様の顔を覚えにくく者の為に役員さんは不一の入ったバツチの様なものをつけ下さつたらと思いました。

どに角あれだけの大勢でない各支部毎の
例会に出席して会合と、うふの二自分自

私の人生考

卷之三

学校を卒業した早川さんは、出版社等を点々とつとめていた。いずれも臨時職員の地位しか与えられず、常にやめさせられることへの不安があつた。こんなつとめへの不安から何か自分の手に技術を持つて自分で店を持つてやつてゆきたいと考え始めた早川さんに、知人の洋服屋さんなどが洋服の技術をとることをすゝめた。

職在持二人及

商店街を横に折れた奥に「早川洋服病院」の看板を立てた早川さんのお店がある。

学校を卒業した昌一は、いよいよ就職活動に着手することになった。最初に見つかったのは、地元の洋服屋である。そこで面接を受けたが、昌一は、自分には洋服屋で働く才能がないと考へ始めた早川さんに、知人の洋服屋で見習いをすることが決まりた。そこで昌一は、洋服屋の仕事とこれによることを学ぶことを決意した。

座つたまゝで出来る仕事を望んでいた早

座つたまゝで出来る仕事を望んでいた早川さんは、ハンコや時計にくらべると比較的に器用さを必要としない洋服の仕立仕事を心を動かされた。しかし

いざそれのためにどこかの店に見習いにいくべきなのだったが、どこでもいゝ顔はしてくれなかつた。早川さんにすゝめはしてつらくなつた。洋服店でさえそのことについては言葉をにこした。

職業補導所洋服科に入所し、一年間洋服に関する勉強をした。卒業間近に所内で洋服コンクールがあり、早川さんは見事入賞したのだった。それで、自信をつけた早川さんは卒業後間もなく自宅で開業したのだった。

著者ということが頭にあって、なかなか言い出しつらかった。そんな苦労のおかげで、昨年あたりまではさっぱりだつた客も、最近では来てくれるようになり、自分の力で生きて行ける自信も出てきた。早川さんである。

が出来ました。私は只今金物店を経営して居ります。私がこの商売を始めたのが今から四年前私が廿五才の時母と兄が私の為家を貰つてお店を作りそして資本を出してくれました。でも私には商売の経験はありません。果して売れるだらうか、手伝つて貰い約五万円位の売上げがありました。それからは只一人毎日毎日四年間我乍らよくやつたと思います。

私は次男なので母と兄は自転車で十分位の離れた部落に居るので自分一人で自炊生活です。一人なので全部自分でやらねばなりません。商売も仕入販売外交そして問屋との交際その他色々あります。私生活では炊事洗濯友達との交際その他色々あります。男なので炊事が一番苦手で玉子焼とか焼飯が私の十八番ですでも玉子焼とか焼飯が私の十八番ですが自分で作った物は余りおいしくありませんね。だからお腹が空く迄食べないで一日二食位のが時々あります、でももうなれました。でも皆さん商売して四年

私はやつと一人前の人に間になれた様な気がします。生存競争の烈しい世の中で自分の生活を守り伸して行くにはどんな苦しい事も辛い事も我慢してまではいけません。それをやがて楽しみに変えるのです。「苦あれば楽あり」と言います。私もC.P.sの一人です。皆さんと同じ悩みもあります。悲しみもありますけれど私は幸い仕事がありますから幾分なりとも忘れる事が出来ます。私が学校を終えたのが昭和廿年それから十年の間農業をやつたり養鶏をしてしましたが矢張今のお元が一番私に向く様に思いますがそれだけにより以上の忍耐力を必要と致します。昨今商売は不況です思う様に行きません。でも私は後へは引きません石にかじりついても頑張ります。後へ引いたら人生の敗北です。飽迄も生きるのでそして自分の生活に光明を与えるのです少しでもよいから。皆さん人生は長いのです山も高ければ谷も深いのです山に登つても有頂天になつてはいけません。次には必ず谷があります谷に落ちても落幡してはいけません。その向うに花が咲き鳥が鳴く緑の明るい平野が必ず私達を待つてゐると思います早くそこへ努力と強い意志で手をつないで一歩々々近づこうではありませんか。「青い芝」の会の会員の皆さんと共に……。此の道はけわしきものと知りつゝも行かねばならぬ人の生く道 *

更生研究會

* 筆者の住所は 東京都北多摩郡大和町奈良橋三八〇
月十九日、オ一回の更生研究会が世田谷塾で行われた。出席は二十名。テークは「我々はどういう仕事がいいか」いうものだが、研究会というより自由な話し合いで進められ、二つの更生体験談も含めて活潑に意見が述べられた。この中から主なものを拾つてみると次の如きである。

◎自當の出来る仕事を選ぶこと。◎努力忍耐、それにまわりの評判が大事であること。◎他をかえりみる心を持つ様に。◎つき当つてみること。◎内気ではだめでヨコネをつけること。◎脳性マヒ者にはてして、テーマについては「脳性マヒ者ののつける仕事は広範囲に亘っているそれだけに脳性マヒ者の仕事というのはないのではないか」という意見が述べられた。

出来るという早川さんの腕前である。しかし、ここまでやるには自分の強い信念と、それにもまして必要なのは親兄弟愛情と協力なのだと声を強くして、いう川さんの未来の希望は、同じような障者と共に、一つの事業をやってゆこううだ。どうやら、自分の体验から、早川さんは、何事も自分であきらめずにやつてみると、そして出来ないからといって途中で簡単にやめてしまわないで根気よく努力を続けることである。

うも、障害者の人々は努力することがりないようだ。体当たりでやれば出来ないことではないと言われた。記者もまたのこと強調して、ベンをおきます。

なお、早川さんの住所は

終り

会員消息

山本有道君 有名な「しいのみ学園」

の小使さん。六月十四日に上京し、同日夜フジテレビで俳優座の女優岸

輝子さんと対面、岸さんは無給の小使さんとして働いている有道君に毎

月千円づつ送つて上げているとのこ

と。以上、六月十五日の朝日新聞に

大きく取り上げられていきました。

金道子さん ベテスダホームに入所

相馬恵子さん 国立身障者更生指導所

に入所

林三枝子さん 長らくお身体の具合が悪

い由。早くよくなられますように。

吉倉政光君 石川県のおくにの方に帰

てクリーニング店に勤務。外交と洗

い場の仕事をしていられます。

村上裕一君 婚約されました。

佐久間恵子さん 婚約されました。

中村俊彦さん (賛助会員) 今春社会事

業大学を出られ、愛隣会の養護施設

に就職。以来一貫目(三・七五キロ)

やせたとか。曰く「社会事業は肉体

労働ですよ」

酒井 (仁君 月住吉町) 入院されました。

早くよくなれますように。

御寄附御礼

左の方々から御寄附がありました。

山岸信子様 (以下略) 土谷二三様 今岡寛子様

松本公一様 金子洋文様 小田原民幸様

又、田園調布教会の長寧様からは塾の子ども達にビニール製玩具を頂きました。子厚く御礼申上げます。

黒板

★多くの会員が望んでいらっしゃる

私達の施設を作るため、会費の一割をつみたることにしました。

勿論、その額はわずかなものですが、ガラス一枚、柱の一本にでも

なればと思います。一般の会計とは別に

しつみたておきますから皆様のご協

力をお願い致します。

★去る三月、広島地方に、本会と同じよ

うな趣旨を持つた「ひかり」の会と、

脳性マヒ者のグループが出来た。今後の

同会の発展を祈ると共に、お互いに兄弟

として共通の目的に向つて手をつないで

共に歩んで行きたい。

★本会では会員の更生を計る為編物の講

習及び授産を行っています。場所は、青

い芝、世田谷塾(下図)で毎週月、水、金

の三日、うち水曜日には日本編物協会の

先生が来られて指導して下さいます。月

謝は不要で、機械のない方には機械もお

貸し致します。初心者でも結構、編物をやつてみようという方は、ふるつて下さい。

新宿至
高井戸
玉電下
小田急
豪館寺
渋谷至
立秋
小田原至
魚屋
空地
伊藤先生宅

編集後記

立秋とはいゝ、夏は今が盛り、うちわを使い、汗をかきながらの編集。庭の木々の青さが美しい。青い芝も目に見える

ほどの成長ぶりを示している。

紙面の都合でのせることの出来なかつた原稿があるが、これは「二周年記念号」にのせる。また、記念号の原稿を募集中である。ふるつて応募して下さい。(メ

切九月三十日)

・広報部でお願いした「C.P.実態調査書」の集りが悪い。重要な資料であるから全員、「九月十五日」までに提出してほしい。(尾端)

・「脳性マヒの話」今回は休みます。(金沢)